

金属同士の接触部分を表面改質で徹底保護！

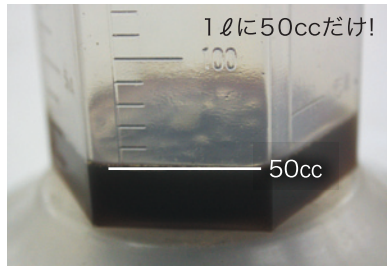
エンジンの中を気にした事はあるだろうか？ 見た目でサビが出ていたり、キズが付いていたりするならすぐに分かる。しかしエンジン内部



●文：編集部 ●写真：飛澤 慎、編集部

はどうだろう。ピストンを動かすためには大小のギヤやチェーン等によって構成され、0回転から1万回転オーバーまで動き回っている。オイル交換を定期的にしても金属同士の摩擦は必ず起こるものだ。そんな中、「エンジン保護」や「フ

リクション低減」などを目的とした様々なオイル添加剤が世の中に流通しているが、燃焼した時に有害な塩素ガスの発生する可能性や、金属腐食、ゴム類のシール劣化などが起こるものも見受けられる。



エンジン容量に合ったものを選ぶ。

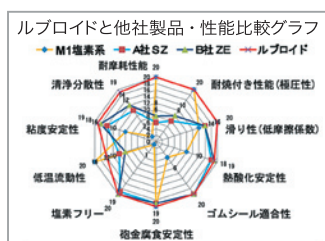


→金属同士に高い圧力をかける耐摩耗試験結果でも塩素の入った黄色い添加剤より高い耐摩耗性と潤滑性を発揮した。



耐摩耗性は評価トップ！

←回転球同士を押し付けての耐摩耗試験結果。緑や青色の添加剤に比べると2倍、塩素が入った黄色の添加剤と同等の耐摩耗性を発揮した。



↑他社添加剤と比較した場合、洗浄成分、耐摩耗性、耐焼き付き性能が高い。さらにオイル劣化の防止と粘度の安定性が優れている事もわかる。

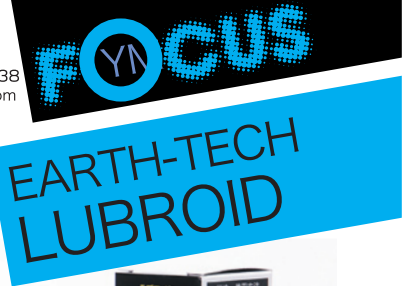
エンジン内部の摩耗対策

㈱アーステック ☎0551-38-1438
http://lubroid.com

ルブロイド LE-2000 (240ml) / ルブロイド LE-2500 (120ml) ●価格：7128円/4104円



オイル添加剤として自動車メーカーの生産ラインでも採用されたルブロイドを編集部員の車両でテストしてみた。



IMPRESSION

キャブ車でも効果できめんシフトフィーリングが超向上

編集部T所有の'00年モデルのセロー225 (1万3000km走行車) を使用し実際に効果があるかを検証してみた。

車両は10年近く不動状態で1ヶ月



実車で体感できるか!?

程前に再始動したものだ。エンジンはフラッシングしオイル、フィルターを交換しただけ。不動期間が長いため、ルブロイド添加前はギヤチェーンではガリガリした感じやクラッチのタッチがなめらかなにいかない事があり、砂利道の走行ではギヤチェーンが顕著にシビアな感があつた。

セロー225はオイル量1ℓのため、ルブロイド添加量は50cc程注入。その後15km程走行したが、この時点ではまったく変化を実感する事はできなかった。その後、片道100km程の一般道のみのツーリングを実施。その道中、70km程走った所で変化が

燃費に関しては今回は変化はみられず、フィーリング変化には大変驚いた。



ツーリングでフィーリングチェック

おとなしくなり驚いてしまった。同じように砂利道走行も道中でおこないチェックしてみたが、ミッションのギクシャク感も減ったのかハンドルの操作に集中でき、ギヤチェンジのシビアさは陰を潜めていた。

起きた。明らかにギヤチェーンの時のガリガリ感が減ったのだ。信号待ちからスタートしてギヤを上げる時の音